

上下水道ビジョン基本方向の達成状況について(下水道事業編)

[上下水道ビジョン(下水道編)に掲げた方針達成状況評価]

	上下水道ビジョン(下水道編)方針	H25
1	汚水整備の方針	A(3.0)
2	雨水整備の方針	A(3.0)
3	経営健全化の方針	A(3.1)

[評価ランク及び評価点]

評価	評価点	説明
SS	5(優)	目標を大幅に上回る達成
S	4(良)	目標を上回る達成
A	3(可)	目標どおりの達成
B	2(不良)	目標をわずかに下回った
C	1(不可)	目標を著しく下回った

※小数点以下四捨五入で算出

上下水道ビジョン(下水道編)方針	評価	上下水道ビジョン(下水道編)取り組み方針 下水道事業経営計画基本施策	評価	目標	実績	H25
汚水整備の方針	A	1 住居系地域での汚水概成	A	着実に事業を進め、住居系地域の平成30年度概成を目指す。	平成25年度は東部地域を中心に約5.7kmの汚水管整備を行い、人口普及率94.6%を達成した。	継続
		2 工場系での汚水整備	A	事業所については、接続希望の有無などの意識調査等を実施し、排水設備設置義務免除等の諸課題を整理しながら、平成27年度より順次、効果的に整備を進める。	春日西町地区の事業所において、接続希望の意識調査を行った。	継続
		3 水洗化の促進	A	・補助金交付制度の周知を徹底し、接続義務期限内の水洗化の促進を図る。 ・個別訪問による市民との対話を深め、早期未接続家屋の解消を図る。	平成25年度は、供用開始から3年以内に改造工事をしていただけるよう文書による周知や、改造に係る補助金や融資あっせんの助成制度の利用について、ホームページ等を活用したPR活動を行った。また、義務期限を超えた未接続家屋558件の実態調査を行い、79件の水洗化工事を実施した。	継続
		4 整備課題地区の解消	A	・権利者への粘り強い交渉を継続する。 ・登記簿などの権利確認を定期的に行い、調査を継続する。 ・整備困難地区については、技術的な検討・検証を行い効果的で効率的な方法により整備を推進する。	権利者の承諾を得たことから、出口3丁目地区の7家屋及び長尾地区の2家屋において工事を行った。また、私道の土地所有者に変更が無いかなどを確認を行った。	継続
		5 施設の維持・更新	A	下水道長寿命化支援制度を活用して枚方市が保有する下水道施設を限られた財源の中で、計画的に改築していくために、処理区分ごとに下水道長寿命化計画を策定する。	平成25年度は計画策定に向け、長寿命化計画策定までの考え方や課題の整理を行い下水道長寿命化支援制度を活用した事業実施のためのスケジュールを取りまとめた。	継続
		6 施設の耐震化	A	重要な幹線等と汚水中継ポンプ場を対象施設として、流下能力・揚排水機能を確保する。	平成25年度は、耐震診断結果に基づき、Φ200～450mm 約367mの管渠更生工事と、2号人孔7基の浮上防止対策工事及び特殊マンホール1基の耐震補強工事を実施した。	継続
雨水整備の方針	A	1 浸水被害の軽減	A	浸水被害の軽減いわゆる減災の観点に立ち、効果的で効率的な整備手法を見極め、優先度を総合的に勘案した整備を計画的に進める。	・藤阪元町、印田町、町楠葉地区で浸水対策工事を実施した。 ・蹠跣排水区において下水道浸水被害軽減総合計画を策定した。	継続
		2 10年確率に対応した雨水整備	A	浸水に対する安全度をより向上させるために、平成8年度に降雨確率を5年から10年に強化した。今後も、この10年確率(時間降雨量54.4mm/h)に対応した計画的な雨水整備を進める。	利根川雨水支線、養父丘排水路(下流部)、内野雨水支線、禁野本町雨水支線、久保川雨水支線の整備を完了した。	継続
		3 ポンプ場の整備	A	新安居川ポンプ場、溝谷川ポンプ場など順次、ポンプ場の整備・充実を図る。	・新安居川ポンプ場整備に向けて用地の先行取得を進め、実施設計に着手した。 ・溝谷川ポンプ場平成24年度より着手していた自然吐け水路、沈砂池(1池)の整備工事を引き続き進めた。	継続
		4 幹線・水路の整備	A	幹線下水道の整備は、ポンプ場と並び整備効果が広範囲で、かつ雨水整備の根本的な改善につながる基幹施設であるため、浸水被害地域を中心とした雨水幹線・支線やバイパスなどの整備を計画的に進める。	利根川雨水支線、養父丘排水路(下流部)、内野雨水支線、禁野本町雨水支線、久保川雨水支線の整備を完了した。	継続
		5 貯留・浸透施設の活用	A	排水を一時的に抑制する貯留・浸透施設などの整備を進めるため、公共施設を中心に施設整備を進め、併せて民間開発においても貯留施設などの協力を求める。	平成25年度に雨水貯留検討業務を実施し、市内全域の公共・公益施設を活用した雨水貯留施設の設置検討を行った。また、大阪府立精神医療センター等に貯留施設設置の協力を得た。	継続
		6 施設の適切な維持・更新	A	・施設の改築・更新については、当面は機能を維持することに重点を置いたものとするが、浸水対策上、最重要施設となるポンプ場は、耐用年数を勘案した長寿命化計画を作成し、効率的な更新を進める。 ・管渠の定期的な点検や清掃、補修を強化するとともに、降雨時のパトロールにより、機能維持、浸水の防除に努める。	・ポンプ場施設の効率的な維持更新を進めるため、長寿命化計画を策定する準備として下水道施設設備台帳システム構築委託の資料整理を行った。 ・管渠の維持管理を直営及び発注業務により行い、浸水防除に努めた。	継続
		7 施設の耐震化	A	汚水施設と同様に、重要な幹線管路や雨水ポンプ場を対象に耐震対策を進める。	重要な幹線管路である利根川雨水支線、内野雨水支線、久保川雨水支線の耐震化を図った。また、雨水ポンプ場の耐震化は長寿命化計画に含め、基礎資料の整理を行い耐震対策を進めた。	継続
経営健全化の方針	A	1 使用料の適正化	S	適正な原価計算に基づく使用料設定が行えるよう取り組んでいくとともに、対象経費の削減による原価の抑制や水洗化率の向上による増収にも努める。	平成25年10月に下水道使用料の10%増額改定を行った。	継続
		2 公費負担のあり方	A	「雨水公費・汚水私費」の経費負担区分の適正な運用を図るとともに、適切な公費負担のあり方について検討していく。	平成25年度基準外繰入金は、2,310,376千円で、平成24年度の3,002,818千円と比べ692,442千円の減少となった。	継続
		3 補助金等の活用	A	今後本格化する更新事業等についても、補助制度の効果的な活用に努める。	平成25年度は、社会資本整備総合交付金において整備事業費として683,000千円の補助金を得た。また、国の経済対策に対応し平成26年度要望額の2～3割を前倒し、汚水整備事業や雨水調整池取得に係る国庫補助交付申請を行った。	継続
		4 執行体制の構築	A	共通部分の統合はもとより、今後本格統合に向け、積極的に組織の見直しについて検討する。	上下水道組織の再編に向けて、上下水道組織を統合している先行市に対して、状況調査を行い、調査結果の分析、検討を進めた。	継続
		5 民間委託を活用した効率的な施設管理	A	適正な業務運営やサービス向上に留意し、業務の効率化を図る。	従前より、出口汚水中継ポンプ場の維持管理や景観水路の維持管理、その他施設の警備業務の民間委託を継続して行っている。	継続
		6 企業債利息等の縮減	A	企業債発行額の抑制や低利率に借り換えるなど、企業債利息等の縮減に努める。	平成25年度決算での支払利息は2,053,278千円で平成24年度の支払利息2,198,729千円と比べ145,451千円減少した。また、企業債は、2,120,200千円新規発行し、5,974,860千円の償還を行ったことにより企業債等残高は、81,687,870千円となった。	継続
		7 人材育成と技術継承	A	経営感覚のある人材の育成や専門技術の継承を図る。	職場内研修に加え、下水道関連講習会や車両系建設機械運転技能講習、玉掛技能講習等を受講した。	継続
		8 下水道整備計画等の策定	A	優先順位や事業規模などを考慮し、下水道長寿命化計画や下水道施設耐震化計画、下水道浸水被害軽減総合計画等を策定する。	平成25年度は、下水道総合地震対策計画や蹠跣排水区で下水道浸水被害軽減総合計画を策定した。	継続